

平成25年度 自己評価表

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)		技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくまじい力と、感動したり他者を思いやるあたたかみ心とを兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。		今年度の重点目標		1. 確かな学力の育成 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現					
評価項目		評価の具体項目		年度当初 目標(年度末の目指す姿)		目標達成のための方策		経過・達成状況		評価結果 (3月)	
1	確かな学力の育成	① 授業改善と学力の定着	○授業評価アンケート結果及び活用	・生徒の授業満足度は概ね良好 ・学習状況や理解度を把握 ・授業改善に活用	【授業改善】 ・生徒の理解度、学習意欲を高めるための改善を実施	【授業改善】 ① 調査、模試、資格試験等の分析・活用 ② 授業評価アンケートの活用 ③ 各種研修会等へ参加及び内容の伝達	・個人面談等の充実 ・公開・研究授業(年2回以上参加)の充実、教材研究の充実 ・スクリューアップ、教職員共通理解	【授業改善】 ① 個人面談回数の増加。面談後、生徒状況を各分掌・教科で共有。 ② 授業評価アンケート結果、研究授業等による改善内容を授業へ還元。 (英語による授業、言語活動の充実、ICT活用、体験的活動等) ③ 各種研修会等へ参加(先進校、教科指導研修等)、職員会議、教科会等で共有。 【基礎学力の育成】 ① 学力向上委員会実施(1学期2回)。委員会意見(授業規律の確立、自宅学習時間増、授業改革)の検討(学年会・科会)。実施可能な項目から早期実践。 ② 基礎学力診断テストの結果、研究授業等による改善内容を授業へ還元。 ③ 基礎学力向上対策(先進校教材等)、授業法(教科指導研修)等の検証と改革推進。 【基礎学力の育成】 ① 学力向上委員会実施(1学期2回)。委員会意見(授業規律の確立、自宅学習時間増、授業改革)の検討(学年会・科会)。実施可能な項目から早期実践。 ② 基礎学力診断テスト(1,2年の回数変更(年2回→年3回))。学習意欲の向上を喚起(1Week Trial)の意義説明等)。標準テストの成績向上に課題。 ③ 数学基礎演習実施後、習得度の低い生徒へ補習。 ④ 放課後補習実施(理数工学科全年生、3年工業学科希望者)。夏季補習実施(理数工学科全年生)。その他適宜実施。 ⑤ 課題、小テストを計画的に推進。 【学習環境の整備】 ① ロッカー内の整理整頓指導徹底。ロッカー・教室通路等に物を置かせない指導の徹底。 ② 教科書等の準備の指導を徹底(年度当初のガイダンスを徹底、教員の早めの教室待機) ③ 全クラスで提出物の指導を徹底。提出状況を関係職員で共有及び指導の徹底。	【基礎学力の育成】 ① 学力向上委員会実施(1学期2回)。委員会意見(授業規律の確立、自宅学習時間増、授業改革)の検討(学年会・科会)。実施可能な項目から早期実践。 ② 基礎学力診断テスト(1,2年の回数変更(年2回→年3回))。学習意欲の向上を喚起(1Week Trial)の意義説明等)。標準テストの成績向上に課題。 ③ 数学基礎演習実施後、習得度の低い生徒へ補習。 ④ 放課後補習実施(理数工学科全年生、3年工業学科希望者)。夏季補習実施(理数工学科全年生)。その他適宜実施。 ⑤ 課題、小テストを計画的に推進。 【学習環境の整備】 ① ロッカー内、上の整備向上。 ② 授業前の着席・挨拶は改善。教科書等の準備に課題。 ③ 改善傾向。	【基礎学力の育成】 ① 学力向上委員会実施(1学期2回)。委員会意見(授業規律の確立、自宅学習時間増、授業改革)の検討(学年会・科会)。実施可能な項目から早期実践。 ② 基礎学力診断テスト(1,2年の回数変更(年2回→年3回))。学習意欲の向上を喚起(1Week Trial)の意義説明等)。標準テストの成績向上に課題。 ③ 数学基礎演習実施後、習得度の低い生徒へ補習。 ④ 放課後補習実施(理数工学科全年生、3年工業学科希望者)。夏季補習実施(理数工学科全年生)。その他適宜実施。 ⑤ 課題、小テストを計画的に推進。 【学習環境の整備】 ① ロッカー内の整理整頓指導徹底。ロッカー・教室通路等に物を置かせない指導の徹底。 ② 教科書等の準備の指導を徹底(年度当初のガイダンスを徹底、教員の早めの教室待機) ③ 全クラスで提出物の指導を徹底。提出状況を関係職員で共有及び指導の徹底。	
			○進路行事等の取組	・新規事業の効果もあり、生徒の進路意識が向上 ・3者個人相談会(ハローワーク職員・生徒・保護者)、1年生キャリア塾を実施	【学習意欲の喚起と自宅学習の習慣化支援】 ・各分掌・教科の諸活動を通して生徒の学習意欲を喚起 ・進路・学習目標の確立を支援し、自宅学習の習慣化を促進	【学習意欲の喚起と自宅学習の習慣化支援】 ① 各種試験・適性検査・外部進路行事等の活用 ② シラバスの活用 ③ 課題・小テストの実施 ④ 自宅学習調査(年2回)の実施と分析	・個人面談等で利用 ・学習の全体像を提示 ・生徒の理解度を把握、自宅学習の推進	【学習意欲の喚起と自宅学習の習慣化支援】 ① 個人面談の回数増加。面談後、生徒状況を各分掌・教科で共有。 ② 授業評価アンケート結果、研究授業等による改善内容を授業へ還元。 (英語による授業、言語活動の充実、ICT活用、体験的活動等) ③ 各種研修会等へ参加(先進校、教科指導研修等)、職員会議、教科会等で共有。 【基礎学力の育成】 ① 学力向上委員会実施(1学期2回)。委員会意見(授業規律の確立、自宅学習時間増、授業改革)の検討(学年会・科会)。実施可能な項目から早期実践。 ② 基礎学力診断テストの結果、研究授業等による改善内容を授業へ還元。 ③ 基礎学力向上対策(先進校教材等)、授業法(教科指導研修)等の検証と改革推進。 【基礎学力の育成】 ① 学力向上委員会実施(1学期2回)。委員会意見(授業規律の確立、自宅学習時間増、授業改革)の検討(学年会・科会)。実施可能な項目から早期実践。 ② 基礎学力診断テスト(1,2年の回数変更(年2回→年3回))。学習意欲の向上を喚起(1Week Trial)の意義説明等)。標準テストの成績向上に課題。 ③ 数学基礎演習実施後、習得度の低い生徒へ補習。 ④ 放課後補習実施(理数工学科全年生、3年工業学科希望者)。夏季補習実施(理数工学科全年生)。その他適宜実施。 ⑤ 課題、小テストを計画的に推進。 【学習環境の整備】 ① ロッカー内、上の整備向上。 ② 授業前の着席・挨拶は改善。教科書等の準備に課題。 ③ 改善傾向。	【学習意欲の喚起と自宅学習の習慣化支援】 ① 個人面談の回数増加。面談後、生徒状況を各分掌・教科で共有。 ② 授業評価アンケート結果、研究授業等による改善内容を授業へ還元。 (英語による授業、言語活動の充実、ICT活用、体験的活動等) ③ 各種研修会等へ参加(先進校、教科指導研修等)、職員会議、教科会等で共有。 【基礎学力の育成】 ① 学力向上委員会実施(1学期2回)。委員会意見(授業規律の確立、自宅学習時間増、授業改革)の検討(学年会・科会)。実施可能な項目から早期実践。 ② 基礎学力診断テストの結果、研究授業等による改善内容を授業へ還元。 ③ 基礎学力向上対策(先進校教材等)、授業法(教科指導研修)等の検証と改革推進。 【基礎学力の育成】 ① 学力向上委員会実施(1学期2回)。委員会意見(授業規律の確立、自宅学習時間増、授業改革)の検討(学年会・科会)。実施可能な項目から早期実践。 ② 基礎学力診断テスト(1,2年の回数変更(年2回→年3回))。学習意欲の向上を喚起(1Week Trial)の意義説明等)。標準テストの成績向上に課題。 ③ 数学基礎演習実施後、習得度の低い生徒へ補習。 ④ 放課後補習実施(理数工学科全年生、3年工業学科希望者)。夏季補習実施(理数工学科全年生)。その他適宜実施。 ⑤ 課題、小テストを計画的に推進。 【学習環境の整備】 ① ロッカー内、上の整備向上。 ② 授業前の着席・挨拶は改善。教科書等の準備に課題。 ③ 改善傾向。		
2	豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	○人権・性教育LHR、保育実習・シニア体験	・生徒は生命、人権尊重の大切さを思科	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ・生徒の自己肯定感・自己受容感の向上 ・共に認め合い、互いの個性を尊重しあえる人間関係の構築	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ① 人権教育・性教育LHRの充実 ② 性教育LHR ③ ハーパー・QV調査の分析・活用	・人権意識の高揚、他者の人権・存在を尊重する態度の育成 ・WYSH教育(1年生)の実践 ・生徒理解、クラスの目標の設定、集団規律の形成	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ① 性に関する意識調査を実施(性教育講演会(7月)後)及び分析。いじめ問題に早期に対応(特設LHRを実施(9月))。生徒が相談しやすい環境の整備に課題。各教科でも人権教育を推進。問題行動防止講演会を実施。 ② WYSH教育全国研修会(1年団中心)参加。性教育職員研修会(11月)を実施。全教職員で理解深化。性教育LHRで実践(1年)。 ③ ハーパー・QV調査(1・2年2回)及び職員研修を実施。LHR・面談等に結果を活用。いじめ等の対応に有効活用。 【人権教育の推進】 ① 一人一研修の徹底 ② 生徒情報の把握 ③ 専門機関との連携	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ① 性に関する意識調査を実施(性教育講演会(7月)後)及び分析。いじめ問題に早期に対応(特設LHRを実施(9月))。生徒が相談しやすい環境の整備に課題。各教科でも人権教育を推進。問題行動防止講演会を実施。 ② WYSH教育全国研修会(1年団中心)参加。性教育職員研修会(11月)を実施。全教職員で理解深化。性教育LHRで実践(1年)。 ③ ハーパー・QV調査(1・2年2回)及び職員研修を実施。LHR・面談等に結果を活用。いじめ等の対応に有効活用。 【人権教育の推進】 ① 一人一研修の取り組みが不十分。 ② 情報をとくに学年、人権教育部、保健相談部等を中心に速やかに対処。 ③ いじめ問題の早期解決のため、関係機関と連携。人権教育職員研修(10月)	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ① 各LHRの事前・事後研修会の時間確保と充実。各クラス・教科での取り組みを共有し、諸問題へ早期対応。いじめ防止基本方針の周知。保健委員会の活動を強化。女子生徒の個別指導を一層充実。 ② WYSH教育の推進。事後分析(効果と改善点の検証)。WYSH教育全国研修会への参加(1年団)。 ③ 引き続き、クラスの指導に活用。 【人権教育の推進】 ① 適宜情報を提供(他校の公開LHRや講演会等)し、未実施者へ個別に声掛け。 ② 現状把握をもとに、学校生活全般において人権啓発を推進。 ③ 連携強化の推進。	
			○いじめアンケートの活用	・問題の早期把握 ・全職員で取組む体制を強化 ・いじめ対策マニュアルの改善	【人権教育の推進】 ・教職員研修を通して自己の振り返り ・教職員間連携、関係機関との連携による問題の早期対応	【人権教育の推進】 ① 一人一研修の徹底 ② 生徒情報の把握 ③ 専門機関との連携	・校外の人権教育研修への自発的参加の呼びかけ ・各学年・各分掌の連携、密な情報交換	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ① 性に関する意識調査を実施(性教育講演会(7月)後)及び分析。いじめ問題に早期に対応(特設LHRを実施(9月))。生徒が相談しやすい環境の整備に課題。各教科でも人権教育を推進。問題行動防止講演会を実施。 ② WYSH教育全国研修会(1年団中心)参加。性教育職員研修会(11月)を実施。全教職員で理解深化。性教育LHRで実践(1年)。 ③ ハーパー・QV調査(1・2年2回)及び職員研修を実施。LHR・面談等に結果を活用。いじめ等の対応に有効活用。 【人権教育の推進】 ① 一人一研修の取り組みが不十分。 ② 情報をとくに学年、人権教育部、保健相談部等を中心に速やかに対処。 ③ いじめ問題の早期解決のため、関係機関と連携。人権教育職員研修(10月)	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ① 性に関する意識調査を実施(性教育講演会(7月)後)及び分析。いじめ問題に早期に対応(特設LHRを実施(9月))。生徒が相談しやすい環境の整備に課題。各教科でも人権教育を推進。問題行動防止講演会を実施。 ② WYSH教育全国研修会(1年団中心)参加。性教育職員研修会(11月)を実施。全教職員で理解深化。性教育LHRで実践(1年)。 ③ ハーパー・QV調査(1・2年2回)及び職員研修を実施。LHR・面談等に結果を活用。いじめ等の対応に有効活用。 【人権教育の推進】 ① 一人一研修の取り組みが不十分。 ② 情報をとくに学年、人権教育部、保健相談部等を中心に速やかに対処。 ③ いじめ問題の早期解決のため、関係機関と連携。人権教育職員研修(10月)		
3	キャリア教育の充実と生徒の進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	○「工業技術基礎(共通実習)」	・各専門科の特色を活かし、基礎的・基本的な内容を指導 ・レポート内容、提出・時間厳守、集合場所の確認等の指導の徹底に課題	【工業技術基礎(共通実習)の充実】 ・カリキュラムの充実 ・指導方法の充実・研究	【工業技術基礎(共通実習)の充実】 ① 各小学科共通の指導内容のガイダンスを充実及び事前指導時間を十分に確保 ② レポート内容の充実	・言語活動の一環	【工業技術基礎(共通実習)の充実】 ① 事前指導時間を充分確保(昨年度比3倍)。時間厳守は改善。意義理解度は向上。 ② レポート内容が充実。 【人材育成】 ① (工業) 計算技術検定合格126/148名(85.1%(昨年84.8%))、若干上昇。 危険物取扱者乙4合格11/90名(12.2%(31.3%))、大幅下降。 初級CAD検定合格14/37名(37.8%(39.5%))、若干下降等。 (その他)実検・英検・検校等の資格試験を奨励。対策補習や模擬テストを実施。改善点→漢検2級合格2名、昨年度のみ。英検・受験者増。 ② 企業見学 (企業19社、短期大学1校、4年制大1校、建設現場7件、施設見学2件、昨年度同様) 鳥取版デュアルシステム (機械科2名、電気科6名、協力企業数4社、昨年度比7名減、1社減) インターンシップ事前打ち合わせが充実。 ③ 3S(整理・整頓・清掃)は改善傾向。 ④ 実習・課題研究を中心に、「ものづくり」マインドの育成を推進。県高校生ものづくりコンテスト優勝(電気工部門、電子回路組立部門、来年度中国大会出場)。	【工業技術基礎(共通実習)の充実】 ① 事前指導内容を標準化を徹底。実習内容の研究。単位数変更(4→3)に伴う内容の精選。 ② レポート作成の継続指導。 【人材育成】 ① 資格・検定等の指導方法見直し(演習問題の増量)。生徒の興味・関心を引き出す工夫(授業に検定試験問題を取り込む等)を充実。 ② 鳥取版デュアルシステムの早期(3月)案内。インターンシップ依頼企業の検討と連携強化。 ③ 5S「あさひ」の継続指導。 ④ 高校生ものづくりコンテスト大会への早期選手動誘及び活動の強化。		
			○資格取得指導	・「国家資格・検定取得ガイドブック」に則り、適切な時期に案内 ・早朝・放課後補習や社会人講師による実技指導等を実施 ・昨年度、取得率は科によって様々 ・昨年度、3年生の一人一資格を実現できず ・上級資格取得の生徒は増加	【人材育成】 ・各工業分野の基礎的・基本的な知識と技能の養成 ・専門性の深化による資格社会に対応できる能力の養成 ・社会的・職業的な自立支援 ・ものづくり企業で期待される能力の養成	【人材育成】 ① 資格取得指導補習の徹底 ② 体験活動の充実	・早朝・放課後補習 ・生徒への早期指導 ・事前指導内容の充実と徹底	【工業技術基礎(共通実習)の充実】 ① 事前指導時間を充分確保(昨年度比3倍)。時間厳守は改善。意義理解度は向上。 ② レポート内容が充実。 【人材育成】 ① (工業) 計算技術検定合格126/148名(85.1%(昨年84.8%))、若干上昇。 危険物取扱者乙4合格11/90名(12.2%(31.3%))、大幅下降。 初級CAD検定合格14/37名(37.8%(39.5%))、若干下降等。 (その他)実検・英検・検校等の資格試験を奨励。対策補習や模擬テストを実施。改善点→漢検2級合格2名、昨年度のみ。英検・受験者増。 ② 企業見学 (企業19社、短期大学1校、4年制大1校、建設現場7件、施設見学2件、昨年度同様) 鳥取版デュアルシステム (機械科2名、電気科6名、協力企業数4社、昨年度比7名減、1社減) インターンシップ事前打ち合わせが充実。 ③ 3S(整理・整頓・清掃)は改善傾向。 ④ 実習・課題研究を中心に、「ものづくり」マインドの育成を推進。県高校生ものづくりコンテスト優勝(電気工部門、電子回路組立部門、来年度中国大会出場)。			
3	職業意識の育成と進路指導の徹底	○企業との連携	・企業見学、インターンシップ等を実施	【職業意識の育成】 ・企業での体験活動等により、職業・勤労意識を育成	【職業意識の育成】 ① 各事業の推進	・企業見学、インターンシップ、鳥取版デュアルシステム、社会人講師等との連携強化	【職業意識の育成】 ① 各事業の効果大。企業との連携を強化。 【情報発信】 ① 津ノ井地域へPTAだよりに配布。学校HPの充実。とっとり産業フェスティバルやマスコミへ情報提供。科の内容を中学生へアピール(中学生体験入学や鳥取TEC等)。学校情報サイト「まちONLINE」が浸透。 【地域との連携】 ① 各行事を通して、地域との連携が強化。 【PTA活動の推進】 ① 保護者との積極的な連携が見られ、各PTA活動が充実。学校祭や体育祭等への保護者参加が大幅増。	【職業意識の育成】 ① 本年度も予定。来年度に向けて事前事後指導の内容を検討と一層の充実。 【進路指導の徹底】 ① 未定者や進学者への面接や補習を継続。 ② (1・2年)早期に進路目標を設定させるための計画。(3年)引き続き面接指導を徹底。具体的な指導内容の検討及び面接指導を通して生徒の育成を徹底。 ③ 学校生活全般において指導をおこなう徹底。 ④ 来年度の実施日時や指導方法を検討、指導の徹底。			
		○進路関連行事	・昨年度、就職ガイダンスに参加した生徒は20名から73名と大幅に増加 ・昨年度、ものづくり講演会・探検隊、先輩を囲む会等を実施	【進路指導の徹底】 ・就職、進学に対する心構えの養成 ・学力向上 ・進路目標の早期設定 ・進路目標の実現のための取り組みの推進	【進路指導の徹底】 ① 補習・個人指導の充実 ② 面接指導の充実	・面接試験、就職試験、入試、資格取得対策 ・校内での面接指導 ・個人面談実施等により、具体的進路目標の早期設定	【職業意識の育成】 ① 各事業の効果大。企業との連携を強化。 【情報発信】 ① 津ノ井地域へPTAだよりに配布。学校HPの充実。とっとり産業フェスティバルやマスコミへ情報提供。科の内容を中学生へアピール(中学生体験入学や鳥取TEC等)。学校情報サイト「まちONLINE」が浸透。 【地域との連携】 ① 各行事を通して、地域との連携が強化。 【PTA活動の推進】 ① 保護者との積極的な連携が見られ、各PTA活動が充実。学校祭や体育祭等への保護者参加が大幅増。	【職業意識の育成】 ① 本年度も予定。来年度に向けて事前事後指導の内容を検討と一層の充実。 【進路指導の徹底】 ① 未定者や進学者への面接や補習を継続。 ② (1・2年)早期に進路目標を設定させるための計画。(3年)引き続き面接指導を徹底。具体的な指導内容の検討及び面接指導を通して生徒の育成を徹底。 ③ 学校生活全般において指導をおこなう徹底。 ④ 来年度の実施日時や指導方法を検討、指導の徹底。			
3	地域や産業界との連携強化	○地域との連携	・「高校生マナーアップさわやか運動」や「桜ヶ丘グリーンゾーン」での清掃活動実施 ・「津ノ井地域文化祭」、「鳥取県技能祭」が特に好評	【地域との連携】 ・各種事業を通じて地域と連携した貢献活動の実施	【地域との連携】 ① 各行事への参加	・「高校生マナーアップさわやか運動」や「テクノボランティア」、 「津ノ井地域文化祭」、「技能祭」等	【職業意識の育成】 ① 本年度も予定。来年度に向けて事前事後指導の内容を検討と一層の充実。 【進路指導の徹底】 ① 未定者や進学者への面接や補習を継続。 ② (1・2年)早期に進路目標を設定させるための計画。(3年)引き続き面接指導を徹底。具体的な指導内容の検討及び面接指導を通して生徒の育成を徹底。 ③ 学校生活全般において指導をおこなう徹底。 ④ 来年度の実施日時や指導方法を検討、指導の徹底。				
		○科別PTA	・例年通り多くの保護者参加 ・本校における教育活動への保護者の理解が得られるよい機会	【PTA活動の推進】 ・本校の教育活動への理解の深化 ・生徒指導・支援の充実	【PTA活動の推進】 ① 科別PTA等の公開学校行事による保護者や地域との連携強化	・「高校生マナーアップさわやか運動」や「テクノボランティア」、 「津ノ井地域文化祭」、「技能祭」等	【職業意識の育成】 ① 本年度も予定。来年度に向けて事前事後指導の内容を検討と一層の充実。 【進路指導の徹底】 ① 未定者や進学者への面接や補習を継続。 ② (1・2年)早期に進路目標を設定させるための計画。(3年)引き続き面接指導を徹底。具体的な指導内容の検討及び面接指導を通して生徒の育成を徹底。 ③ 学校生活全般において指導をおこなう徹底。 ④ 来年度の実施日時や指導方法を検討、指導の徹底。				

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・整 5S:整理・整頓・清掃・清潔・整 5S:整理・整頓・清掃・清潔・整

注) WYSH教育とは、Wellbeing of Youth in Social Happinessの頭文字をとったもので、人間基礎教育を基盤とする「性に関する教育」のこと

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]